



2026年5月

東武鉄道株式会社

## 2025年度 決算説明会 主な質疑応答

※本内容は、書き起こしではなく、説明会での質疑応答の内容を弊社にて簡潔にまとめたものです。あらかじめご了承ください。

Q. 短期回転型不動産ビジネスについて、あまり注力していなかったと思うが、今後本ビジネス伸長に向け資本業務提携やM & Aなど拡大策があるのか。沿線外資産を売却する他、外部資産を取得して売却するのか。

A. 当社が保有する不動産の多くは沿線・駅前に所在している。これらは鉄道事業やエキナカビジネスとのシナジーを生み出し、中長期的には鉄道ネットワークを中心とし、再開発を含めたまちづくりという視点で重要な資産であり、資本効率だけで価値判断ができないと考えている。

一方で、資本効率向上も重要であるため、沿線外かつシナジーが薄い資産、利回りが低い資産については入れ替えも選択肢と考え、成長投資への再配分を検討している。

また、外部資産を取得、リノベーションして一棟売却することなども実施しており、今後、拡大させていくことも検討している。

Q. 鉄道運賃改定に向けた、現状の考え方は。

A. 当社は、将来にわたり安全・安心な輸送サービスを安定的に維持していく観点から、運賃改定に向けた検討を進めている。

現在、鉄道事業を取り巻く環境は、老朽化施設の更新や防災対策への投資に加え、人件費、資材、エネルギーコストの上昇などにより、コスト構造が大きく変化している。直近の決算における減益もこれらが主な要因であり、今後もこの傾向は継続するものと見込んでいる。こうした厳しい経営環境下においても、必要な安全対策投資を早期に実現していくことが当社の社会的責任であると認識している。

運賃改定はお客様に直接のご負担をお願いすることになるため、極めて慎重に実施すべきものであると考えている。また、制度上、行政との調整やしかるべき手続きが必要となるものでもある。したがって、具体的な実施時期や改定率については、説明できる段階に至った時点で、速やかに、かつ丁寧に公表・説明することが適切であると考えている。

決して検討を先送りしているわけではなく、事業コストの動向や安全投資の必要性を踏まえ、可能な限り早期に方向性を整理していく方針である。

Q. 東武スカイツリーラインと東京メトロ有楽町線との相互直通運転による効果をどう考えているか。

A. 当相互直通は、東武グループとしても非常に効果の大きいプロジェクトである。

現在、スカイツリータウンエリアの再開発に注力しているが、同エリアと賑わいを増している湾岸エリアが直通となることにより、さらなる価値向上が期待できる。

また、交流人口増にも寄与し、当社沿線にある観光地日光・鬼怒川エリアや両毛エリアとの相互の送客が期待できる。

Q. 自動運転を前提に新型車両の導入を進めているが、導入による人件費等のコストダウン効果はどう考えているのか。

A. 当社は、将来的な労働人口の減少への対策として、自動運転技術の導入に向けた検討を他社に先駆けて進めている。具体的なロードマップとして、まずは大師線において2028年を目標に実証実験を開始する計画である。

自動運転の導入は、深刻化する担い手不足への対応にとどまらず、経営資源（ヒト）の最適配置を目的としている。現在、大師線においては既にワンマン運転を実施しているため、同線区の自動化単独による即座の大幅な人件費削減効果は見込んでいない。しかし、この実証実験で得られた技術や知見を応用し、将来的には他線区へと自動化を拡大していくことで、中長期的に一定程度の人件費削減効果および効率化が発現するものと想定している。

当社が自動運転投資を推進する真の背景は、単なるコスト削減ではなく、人が対応すべき高度な業務への注力と、人的投資をより有効な領域へと振り向けることにある。先進技術の活用により業務の生産性を向上させ、創出されたリソースを安全対策やサービス向上に再投資することで、持続可能かつ付加価値の高い輸送サービスの実現を目指していく。

Q. 説明会資料 29 ページに「総還元性向 50%を目指す」「DOE2.2%」との記載がある。配当性向についてどのように考えているか。

A. 投資家や株主の皆様には、総還元性向重視、配当性向重視という様々なご意見等があることを認識しているが、当社としては総還元性向を経営指標として重視している。配当性向を指標とした場合、利益の増減によって、増減配が発生することが一般的である。当社では、一時的な利益増減に左右されない安定配当を基本方針としているため、総還元性向を経営指標としている。総還元性向 50%を目指し、かつ DOE2.2%以上を意識して段階的に引き上げることとしており、機動的な自己株式取得を含め、株主還元を 1,000 億円程度とする予定である。

以 上